

大正大学地域構想研究所 教授
浦崎太郎

チー ム： こんなのありかなしか
メンバ ー： 市ヶ尾高等学校 河野拓矢 水野裕太
市ヶ尾中学校 渡邊洋大 生井登真 大久保楽音
サポ ーター： 鈴木秀幸 武智理恵 諏訪猛男 黒田明沙
テ ー マ： 動画による「なしかちゃん」と市ヶ尾周辺を紹介

■問題意識と活動のねらい

市ヶ尾周辺には意外と知られていないが遺跡などもあることや、商店会のお店、中学校、高校も含めて市ヶ尾の魅力をなしかちゃんというキャラクターと共に青葉区民だけでなく日本、世界に発信していきたい。

■具体的な活動内容

- ・撮影場所の選定、ストーリーの設定など話し合う。
- ・動画撮影についてイツツコムとの協力いただく。
- ・「なしかちゃん」を出演させるために青葉区役所と交渉。
- ・撮影許可等について商店会のお店、青葉警察署、青葉区土木事務所、駅事務所（市が尾駅、あざみ野駅）を訪問。
- ・映像の時間、撮影の日程を考えて撮影場所、シナリオを再検討。
- ・土木事務所に市ヶ尾古墳公園での撮影許可を申請。
- ・市ヶ尾中学校、市ヶ尾高校、市ヶ尾横穴古墳群、お店（コッペン道士）、区役所前での撮影。
- ・日を改めて区役所内での撮影（小池区長に出演いただく）
- ・映像データの編集。サウンド、字幕も追加。
- ・作品発表。



■活動を振り返っての感想

中学生、高校生、大学生と大人というかなり年齢差のあるグループの中で最初は関わり方やコミュニケーションの取り方に戸惑いがあったように感じたが、最終的には撮影や編集作業については生徒たちに任せ大人は情報提供や許可申請などをサポートするという形に自然と役割分担ができてきたと思う。

屋外撮影については様々な制約があるという事を知ることができた。またいろいろなアイデアから撮影場所を絞り込み、シナリオを削り作品を作っていくという事の難しさや楽しさを感じた。

撮影や編集はひとりに任せてしまう形になってしまったがスキルの問題もあり仕方が無いとも思うが負担が大きかったのではないだろうか。

生徒たちは学業優先であるので活動時間に制約があり話し合いの時間が足りないと感じた。

活動場所も常時使えるような拠点があると良いと思う。



職場や社会とうまく関わっていけない若者の増加を背景として、キャリア教育の推進が叫ばれるようになった。そして、何年にもわたる議論を経て、キャリア教育を通して育成すべき力は「基礎的・汎用的能力」として整理された。すなわち「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」である。

このうち「人間関係形成・社会形成能力」は、少し考えれば分かるように、学校という閉鎖的で均質な世界では十分に身につくとは考えられない。地域に出て多様な人々と関わった方がよいに決まっている。なのに、なぜか「キャリア教育は学校の仕事」という先入観に基づき、表層的な職業体験や受験指導でお茶を濁されているのが全国的な傾向である。

私は前職の高校教諭時代に「高校生の意欲を高めるためにはどうすればよいか？」という問題意識から出発し、「生徒を地域に送り出し、地域課題の解決に挑んでいる本気の大人と関わらせるとよいのではないか？」と思って試行錯誤を続け、やがて見立てに間違いのないことを確認するに至った。その後、キャリア教育の視点から自身の実践を捉え直す機会が訪れ、上記の「基礎的・汎用的能力」を高めるには、生徒を地域に送り出す方が圧倒的に合理的だと気づいた。

以後、このような実践は各地に広まり、私は「大人が高校生を地域に迎えて活動を共にすると、高校生も大人も元気になる」光景にいっぱい出会うことができた。ただ、それは人口流出が激しいなど危機感を共有できる地方だから可能なのであり、首都圏では不可能なことだとも思っていた。

そこに竹原和泉さんからの電話が鳴り、市ヶ尾でも高校生や中学生が地域で活動する事業を始めたいので相談に乗ってほしい旨、ご依頼をいただいた。そして6月初旬、あざみ野駅で顔合わせの会があり、若者の成長に思いを寄せる大人の輪が首都圏にも生まれていることを知って、驚くとともに胸が熱くなった。

7月の大人むけの研修会で講師を務めさせていただいた折には、市ヶ尾の地で輪が広がっていくのを感じた。そして8月以後、中高生が活動を深めていく様子はインターネットを通して伝わってきた。それでも、心のどこかには「都会だから、きっと某かの限界があるに相違ない」という気持ちが残っていた。

ところが、今回の発表会で中高生が自分の言葉で表情豊かに発表する姿や、関わった大人達が幸福感に包まれている様子を目の当たりにし、そうした先入観は木端微塵に吹き飛び、若者が育つ地域に都会も地方もないことを実感した。それどころか、大人が子供や若者に心を寄せ、自分達で良質なコミュニティを創り出していく努力を重ねる限り、むしろ都会ならではの豊かな体験を届けられる可能性が大きいと確信した。

以上、市ヶ尾ユースプロジェクトは、人が育つとは何か、幸せなコミュニティとは何か、多くの人々に希望を与える灯として意義深いものがある。この挑戦が着実に発展を遂げていくことを願ってやまない。

